



家族相談業務スキルアップ研修会
令和5年1月19日 第3回家族職員研修会が吉塚合同庁舎で開催されました。みんなねつとより高村裕子氏にお越しいただき、家族相談業務のスキルアップと題し講義頂きました。講義の内容を少し共有したいと思います。

家族相談は「否定も評価もせずに話を聴くことが大事」!!傾聴80%
共感・受容 (相手の気持ちを受け止める)
気持ちは理解する第一の共感(シンパシー)、言葉で伝えましょう。同じ家族の立場として努めましょう。家族だからといつても、全く同じ経験を相談の始まりでは「労いの言葉を掛けましょ。また、焦らず「待つ」事も大事。相談員は助言者ではなく、仲間として傾聴。

気持ちは理解する第一の共感(シンパシー)、言葉で伝えましょう。同じ家族の立場として努めましょう。家族だからといつても、全く同じ経験を得て相談電話事業を行っています。相談者の一人でも多くの方が電話により安堵感、精神的落ち着き、安らぎを覚え、この電話があつて良かったと思つて頂けるよう、継続していきたいと思います。今後とも皆様のご協力宜しくお願ひします。

家族相談業務スキルアップ研修会
令和5年1月19日 第3回家族職員研修会が吉塚合同庁舎で開催されました。みんなねつとより高村裕子氏にお越しいただき、家族相談業務のスキルアップと題し講義頂きました。講義の内容を少し共有したいと思います。

家族相談は「否定も評価もせずに話を聴くことが大事」!!傾聴80%
共感・受容 (相手の気持ちを受け止める)
気持ちは理解する第一の共感(シンパシー)、言葉で伝えましょう。同じ家族の立場として努めましょう。家族だからといつても、全く同じ経験を相談の始まりでは「労いの言葉を掛けましょ。また、焦らず「待つ」事も大事。相談員は助言者ではなく、仲間として傾聴。

気持ちは理解する第一の共感(シンパシー)、言葉で伝えましょう。同じ家族の立場として努めましょう。家族だからといつても、全く同じ経験を得て相談電話事業を行っています。相談者の一人でも多くの方が電話により安堵感、精神的落ち着き、安らぎを覚え、この電話があつて良かったと思つて頂けるよう、継続していきたいと思います。今後とも皆様のご協力宜しくお願ひします。

事業所部会主催研修会

令和5年3月10日(金)に「みんなが行きたいなる事業所とは!?'というテーマに事業所部会主催の研修会が実施されました。沢山の方に参加していただけたが、時間も少し早めに設定し会場とオンラインのハイブリット形式で35名での開催となりました。遠くは大阪からの参加もありハイブリットならではの研修会となり活発な意見交換もされました。

現在、事業所が増加傾向にあり利用者、職員に選ばれる事業所の具体策として、大川市の木の香ランドの上釜氏、福岡市そよかぜのまちの田中氏に講演をしていただきました。

また、その後グループワークとしてオンラインで3組、会場1組に分かれ、事業所としての思いや家族会から感じる思い等さまざまな意見交換がおこなわれました。

利用者が色々な思いを持って事業所を選んでいます。相談者の一人でも多くの方が電話により安堵感、精神的落ち着き、安らぎを覚え、この電話があつて良かったと思つて頂けるよう、継続していきたいと思います。今後とも皆様のご協力宜しくお願ひします。

令和5年3月10日(金)に「みんなが行きたいなる事業所とは!?'というテーマに事業所部会主催の研修会が実施されました。沢山の方に参加していただけたが、時間も少し早めに設定し会場とオンラインのハイブリット形式で35名での開催となりました。遠くは大阪からの参加もありハイブリットならではの研修会となり活発な意見交換もされました。

現在、事業所が増加傾向にあり利用者、職員に選ばれる事業所の具体策として、大川市の木の香ランドの上釜氏、福岡市そよかぜのまちの田中氏に講演をしていただきました。

また、その後グループワークとしてオンラインで3組、会場1組に分かれ、事業所としての思いや家族会から感じる思い等さまざまな意見交換がおこなわれました。

利用者が色々な思いを持って事業所を選んでいます。相談者の一人でも多くの方が電話により安堵感、精神的落ち着き、安らぎを覚え、この電話があつて良かったと思つて頂けるよう、継続していきたいと思います。今後とも皆様のご協力宜しくお願ひします。

斎藤環教授の講演会に参加して

去る3月4日(日)、ひきこもり診療の第一人者、筑波大学社会精神保健学の斎藤環教授を迎えて、みづまき社会福祉法人ネットワーク(水巻町社会福祉協議会)が主催する講演会が開催されました。その内容をお伝えいたします。

「社会的ひきこもり」の定義は、6ヶ月以上社会参加をしない非精神病性の現象である。外出しても対人関係がない場合はひきこもりと考えられます。

この「ひきこもり」という言葉は造語ではなく、アメリカ精神医学会が編纂した中の英語を「和訳」したものと、また、雇用率売買ビジネスが正しくジャッジされる事を願う。

事業所部会 村上大作

要望活動報告

10月19日、福岡県との要望協議を2年ぶりに県庁で行い、福精連3役など6人が参加しました。要望項目は、③障がい同等の医療費助成と交通運賃割引、地域生活・就労支援、家族支援、差別解消、啓発教育、精神医療改善など10項目。県の関係部局課より回答のあと質疑応答に入りました。

医療費助成については、①当面2級までの無料化、②精神科入院費の3割自己負担分の無料化、③医療費負担などの実態調査の実施などを要望しました。特に、精神科の入院費用3割負担は働きず所得が低い当事者・家族にとり経済的負担が大きいこと、福岡県が実施した精神科入院者への調査で「医療費の負担を軽くすること」が最多だったこと、などもとに強く実施を求めました。県は、①国の制度とすべき。「在宅支援の観点から入院は対象外」としました。

365日のアウトリーチ(訪問支援)、グループホームの拡充など。就労支援では、訓練期間の延長、基幹相談支援センターの拡充を要望。また、いわゆる「障害者雇用率売買ビジネス」は問題であり推奨しないよう求めました。今年度から、高校の教科書に40年ぶりに掲載された「精神疾患について」は後日、教育委員会から福精連事務局に来訪、教師への研修や授業の実施状況などについて改めて意見交換しました。

(白石雄二記)



10項目で医療費助成、交通運賃、福祉改善など

交通運賃では、JRなどがまだ実施しておらず、国交大臣指示で精神障害者割引の導入促進」を明記しており早期実現を要望。

さらに、福岡北九州都市高速道路の割引実施を県としても働きかけるよう求めました。

九州における農園ビジネス(雇用率の売買を行うビジネスと換言できる事業)についての意見交換会を行ってきました。農園については、厚労省も既に問題意識を持つて注視しており、農園に面談をして指導を行つてきました。この農園が行う雇用形態は、現在(令和4年12月時点)の法では、一概に注意指導ができない状況であり、個別での対応でしか取り扱えない。今後も同様の仕組みを行う農園またそれに類似した事業者が現れることを食い止めることはできない状況である。厚労省からは、福精連は、そういうった事業者が現れて問題を発見した時には、各自治体また労働局に通報してほしい。また厚労省は問題意識を持つていることを周知してほしい。とのことでした。

農園、課長補佐は熱心に話を聞いてくれ、問題意識と危機感を持っていますことも理解しました。

課長、課長補佐は熱心に話を聞いてくれ、問題意識と危機感を持っていますことも理解しました。

問題解決にむけては、現時点での法改正といった舵取りは行わず、個別で対応して、注意・指導を行つていくといふことでした。

令和5年1月には西日本新聞、佐賀新聞などで、法定雇用率を狙つたビジネスではないか?利用企業のモラルに問題がある。働いて生み出した成果物が賃金に繋がつておらず、本当の意味での「働く」とは言えない。と紙面に掲載されました。

現在の法では裁けないと厚労省からの発言はあつたが、世論を味方につけ、このようないい場合はひきこもりと考えられています。

この「ひきこもり」という言葉は造語ではなく、アメリカ精神医学会が編纂した中の英語を「和訳」したものと、また、雇用率売買ビジネスが正しくジャッジされる事を願う。

事業所部会 村上大作



厚労省との意見交換会

日時:令和4年12月8日(木)13:30~14:45
場所:衆議院第一議員会館(議員国会事務所)
参加者:厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課2名
主任障害者雇用専門官1名
福精連顧問、事業所部会 計3名

議員秘書1名

では、JRなどがまだ実施しておらず、国交大臣指示で精神障害者割引の導入促進」を明記しており早期実現を要望。

九州における農園ビジネス(雇用率の売買を行うビジネスと換言できる事業)についての意見交換会を行つてきました。農園については、厚労省も既に問題意識を持つて注視しており、農園に面談をして指導を行つてきました。この農園が行う雇用形態は、現在(令和4年12月時点)の法では、一概に注意指導ができない状況であり、個別での対応でしか取り扱えない。今後も同様の仕組みを行う農園またそれに類似した事業者が現れることを食い止めることはできない状況である。厚労省からは、福精連は、そういうった事業者が現れて問題を発見した時には、各自治体また労働局に通報してほしい。また厚労省は問題意識を持つていることを周知してほしい。とのことでした。

斎藤環教授の講演会に参加して

去る3月4日(日)、ひきこもり診療の第一人者、筑波大学社会精神保健学の斎藤環教授を迎えて、みづまき社会福祉法人ネットワーク(水巻町社会福祉協議会)が主催する講演会が開催されました。その内容をお伝えいたします。

精神医学会が編纂した中の英語を「和訳」したものと、また、雇用率売買ビジネスが正しくジャッジされる事を願う。

事業所部会 村上大作

「ひきこもり」は青少年・若年期の問題と考えられましたが、その長期化・高年齢化が課題となり、「8050問題」そして親亡き後と深刻化の一途を辿っています。

「ひきこもり」に至る原因は多様である。例えば、ひきこもつている人は、たまたま困難な状況にあるまともな人であり、自分自身の状態を肯定的に受け入れ主体的に振舞えるようになることにより、出口が見つかる一步になるといわれました。そして、家族は、本人が安心してひきこもれる関係づくりが大切で、覚悟と根気が重要で、つい言つてしまいそうになる言葉「怠け」「甘え」「わがまま」などは禁句と示されています。教授は、家族が安心安全な場所であると言わましたが、とても腑に落ちる言葉です。私たちの施設はまゆうサポートセンター(通所)も利用者や家族の「安心安全な場所」であると言わましたが、とても腑に落ちる言葉です。私たちとして心から感謝申し上げます。

はまゆうサポートセンター総センター長 石田健治